

《名城の襖絵鑑賞とKKRホテルのランチ会》

西ブロック行事

32期 水崎 廣子



12月3日(土)2名のガイドさんの案内で、名古屋城本丸御殿建物と襖絵等鑑賞、園内散策、そしてKKRホテルでランチ会をしました。楽しかったその日を少しお話しします。

お天気にも恵まれ、中村鯨城会の元気な私たち19名、地下鉄名城線市役所駅(現、名古屋城駅)に集合しました。金シャチ横丁(宗春ゾーン)を横目に歩くこと数分、東口の入口、お堀の上に来ました。その時、手すりに沿った見事なとげの生垣に気が付きました。きこく(からたち)でした。昔はあちこちの生垣で見られ、とげの痛さを懐かしく思い出しました。

東口を抜けたとたん青空が広がりました。右手に二の丸庭園です。球体によく手入れされた木立が並んでいます。左手に清正公石曳の像が勇ましく立っています。やがて右に折れ、本丸表二の門から本丸御殿へ、敬老手帳(100円)で入場です。本丸御殿の後方には、工事ため閉館中の天守閣が、金鯨とともに青空にそびえていました。



さて私たちは、本丸御殿「玄関一の間」からの来客になりました。見事な虎の障壁画が迎えてくれました。本丸御殿の建物は、もとは尾張藩主の住居かつ藩の政庁として13棟構成の書院造りでした。優美な外観とともに室内は、花鳥風月等を画材とした絵画、豪華な飾り金具などに目を奪われました。

徳川家康、徳川家の権力、財力の誇示、粋を駆しての技法、色彩、煌びやかさを全身で感じました。狩野派絵師たちが描いた襖絵(重要文化財)が400年たった今、復元模写で見事に生き返っています。中でも上洛殿は最高級の部屋です。襖絵はもとより天井のつく



り、重厚な金具、全体の豪華さが秀でています。そして建物には裏木曾の檜材がふんだんに使われています。私の一番は、良質の松材が用いられ落ち着いた風情、風格の水墨画襖絵の部屋、黒木書院です。本丸御殿を一時間ほどで走り見しました。近世城郭御殿の最高傑作に十分酔いしれました。

活動報告

城内散策の終わりには石垣の刻印の説明を受けました。石垣に刻んだ多種多様な刻印は、他大名と我が大名とを区別するための目印とのことでした。ここで親切丁寧なガイドさんの終了でした。



そのあと 10 分ほど歩き、KKRホテルでのランチ会を楽しみました。展望のいい4階からお城を眺ながらのランチ、、贅沢な時間でした。

1615年の完成から1945年の消失までの330年間、全国のどのお城よりも地震に強かったという名古屋城の歴史があります。現存すれば間違いなく世界遺産という話です。そして復元がここまで可能だったのは、太平洋戦争の空襲を

見据えて襖絵などの文化財、江戸時代の文献、写真記録、実測図などを適切に疎開させた識者の方々の努力があったと言われます。このような国宝級文化財が身近にあることは、観光ばかりでなく、居ながらにして400年の歴史に触れ、学べる日々感謝です。

さて、ここからは余談です。傘寿の私自身が1960年代の元気なころ、二の丸庭園あたりに木造の兵舎跡があり、その建物を学生会館とよび、楽しく集った思い出があります。これは夢だったのでしょうか？ またランチを楽しんだKKR会館は以前三の丸会館という名称でした。そして自身は55年前、ここで結婚式を挙げました。これは写真があるので事実だと思います。



2022年12月3日 名古屋城散策&ランチ会